

第 11 次水道事業経営審議会（第 4 回）ワークショップの概要

- 1 日時 平成 29 年 3 月 17 日（金） 15 : 00～17 : 20
- 2 場所 水道部 第二別館 2 階研修室
- 3 テーマ 吹田の未来の暮らしと水道を考える
 - ①2060 年の人々の暮らしのありようと水道の関わり方
 - ②2060 年の吹田の水道ビジョン、施策
- 4 手法 将来世代グループと現世代グループに分かれてのワークショップ
- 5 出席者
 - A 現世代グループ
北詰会長、太田委員、木田委員、藤木委員、吉田委員
 - B 将来世代グループ
原委員、近藤副会長、亀山委員、栢委員、久保委員、濱田委員
- 6 主な意見

①2060 年の人々の暮らしのありようと水道の関わり方

現世代グループ	将来世代グループ
<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境への更なる配慮(調和)が求められている ・節水技術が更に進んでいる 例) 洗濯機やトイレの節水技術の進歩 プールの浄水設備改善による使用水量減少 ・用途別に水の区別が進んでいる 例) トイレの水は簡易な浄水処理による水（中水）を使用する 洗車に水道水を使わない ・市全体や各家庭での水のリサイクルが進んでいる ・システムの効率化により水道料金が低減されている ・非常用の水が確保されている 例) 地震災害に備えた自己水(井戸)の確保ができています 貯水槽の設置箇所が多数ある ・水道事業に対する市民の理解が進んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・水不足など地球規模の環境問題が起こっている ・人口減少が進んでいる →水道使用量の減少 生産者不足による食物、食糧の減少 社会保障制度の破たん ・住環境等が変化している 例) 居住地の集約化 水道施設の減少 ・技術が進歩している 例) 水による気温の上昇抑制が可能となっている A I の普及、オートメーション化の推進 各家庭レベルでの水力発電の普及

②2060 年の吹田の水道ビジョン、施策

現世代グループ	将来世代グループ
<ul style="list-style-type: none"> ・水資源の保護など地球環境に関する情報収集が必要 ・浄化システムの開発・発達への対応 例) トイレ等への中水利用のシステム構築など ・水道事業に関する I T 化・A I 化等の推進 例) コンピューター管理による更なる効率化 スマートフォンでの使用水量確認などのサービス向上の取組 ・非常時の際の水の確保 例) 市の北部と南部に非常用水源（井戸）の確保 ・幼少時からの水教育への取組 例) 学校における水に関する教育の義務化 	<ul style="list-style-type: none"> ・水資源の確保への取組 ・持続可能な水道施設の更新、健全な施設の維持 例) 中・長期の更新需要の把握 予防保全的な施設の更新 ・災害対策の推進 例) 水道施設の強化、遮断弁の設置 非常用備蓄や貯水槽の増設 ・水道サービスの複数化（用途別） 例) 炊事・飲料用、洗濯、トイレなど ・新技術の導入による効率化の推進 ・資金確保のための財政計画 →信頼性の高い事業運営 ・適正な水道料金の設定 →必要に応じた料金値上げ ・水道事業への理解醸成 例) 水道利用者とのコミュニケーションの推進

